

2026 年度 経営学部 FD 活動方針・活動計画

2026 年度経営学部では、全学の FD 方針に基づき、以下の取り組みを実施する。

1.生成 AI の進化と普及に対応した教育・学修ガイドラインの策定

【目的】

・生成 AI の急速な進化と普及は、学部教育に対して、知的リソースの探索速度向上、翻訳精度の向上といったポジティブな効果を及ぼすと同時に、アウトプットの画一化や生成物への批判・検証の軽視といったネガティブな影響も与えている。このため、教員・学生の双方が生成 AI を健全な形で活用出来るようにするためのガイドライン設定が急務となっている。

・この課題に対応するために、生成 AI に対応するための教育・学修ガイドラインの暫定版を4月中に策定・公表した上で、2026 年度をかけて、学部としてガイドラインを完成させる。このガイドラインは、毎年度改訂を行うことを前提とする。

【実施内容】

・2026 年4月中に、生成 AI に対応するための教育・学修ガイドライン（暫定版）を策定し、公表する。

・暫定版とは別に、ガイドライン策定のための議論を設計し、FD 活動として学部教員間での議論を定期的に行う。2ヶ月に1回程度を想定。

2.「AI Ready な経営学部」への変革に向けた教育像・教育方法の研究

【目的】

・取り組み1と連動して、ガイドラインに実効性を与えるため、生成 AI の健全な活用を前提とした教育像・教育方法の研究を行う。主に教員間での議論や取り組みの共有を通じて、学部として首尾一貫した体制を構築する。

・

【実施内容】

・取り組み1との連動で、前期には教育像の検討のための議論を行う。2ヶ月に1度、取り組み1と交互に実施。議論の成果を完成版のガイドライン（後期中完成）に反映させる。場合によっては、学部 DP、CP への反映も検討する。

・後期には教育方法についての取り組み共有や、あらたな教育方法に関する議論を行う。この議論の成果を完成版のガイドラインに反映させる。

3.相互授業観察の実施

【目的】

- ・授業内容および教授方法の向上を図るとともに、教員相互の実践知の共有を通じて、教育力の組織的向上を促進する。

- ・教員間のコミュニケーションを活性化し、学部内における教育に関する相互理解と協働の基盤を強化する。

【実施内容】

- ・学部教員は、年間最低1回、学部内の他教員の授業を観察する。

- ・観察後は、授業内容や気づき、改善に向けた示唆等について簡潔に整理し、FD委員に報告する。

- ・報告内容については、必要に応じてFD活動（領域MT）の中で共有し、学部全体の教育改善に活用する。

4.領域ミーティングの実施

【目的】

- ・専門領域ごとの教育内容や教授方法、直面する課題について定期的に共有・検討し、各分野における教育の質向上を図る。

- ・教員間での情報共有および意見交換を通じて、学部全体の教育力向上につなげるとともにカリキュラム全体の一貫性を高める。

【実施内容】

- ・「経営」「経済」「マーケティング」「会計」の領域ごとに、定期的にテーマを設定してミーティングを実施する。

- ・設定するテーマは、授業実践の共有、授業アンケートから見いだされた課題への対応検討、教育内容のアップデートに向けた検討などとする。

- ・相互授業観察で得られた知見やFD活動の成果についても適宜共有し、領域内外での教育改善に活用する。

- ・領域ミーティングの成果をとりまとめ、学部全体としての教育方針やカリキュラム改善に反映させる。

5.ベストプラクティスの共有

【目的】

- ・学部全体、もしくは特定の科目群において課題となっているテーマに関してベストプラクティスを共有し、教育の質向上を図る。

- ・ベストプラクティスを共有する事を通じて、学部内の教育におけるばらつきを提言し、学生に対して首尾一貫した学修経験を提供する。

【実施内容】

- ・アイスブレイク（基礎演習、アカデミックスキル）で使えるアクティビティの収集・共有
- ・グループワーク運営におけるノウハウの共有（オンライン・大人数授業）
- ・公欠対応のための学修補完方法（全科目）

6.学生ヒアリングの実施

【目的】

- ・在学生に対してヒアリングを行い、授業内容や教授方法、教育課程などへのニーズや不安を聞き取って教員間で共有し、FD方針やカリキュラム編成の改善に活用する。

【実施内容】

- ・在学生ヒアリング（学年ごと）。授業アンケートなどと連動する形で活用出来るよう検討する。

以上